

「祝福は続く」

ルカによる福音書 24：50-53
ローマの信徒への手紙 8:38-39
2023年4月30日
野村 友美 師

<変わるもの、変わらないもの>

この一週間もいろいろなことがありました。社会的にもですが、みなさんそれぞれの一週間の中でも、嬉しいこと、悲しいこと、楽しいこと、ちょっと嫌だったこと、といろいろあったでしょう。私も今週は、子どもの頃から母のように慕っていたとても大切な人とのお別れがありました。一方で、昨日は呉の港まつりを初めて体験して、とても楽しい時間を過ごすことができました。そして今日は、平谷線の土砂崩れです。本当に、一週間どころか1日として同じ日はありませんよね。

私たちが生きているこの世界で、変わらないものはありません。私たち自身も、周りの状況も、良くも悪くも変わり続けていきます。変わり続けていく私たちに、それでも変わらずに関わり続けてくださる神様がおられる。一人一人の人生を通して、私たち人間の歴史を通して、創り主である神様がずっと関わり続けて、語りかけ続けて、愛し続けて、招き続けていてくださる。そのことを聖書全体が、言葉を尽くして伝えています。

今日の聖書の場面もまた、変わることなく続いているものを私たちに教えているんです。棕櫚の主日からご一緒に読んできたルカによ

る福音書も、とうとう最後の箇所まで来ました。これでこの物語はおしまい、おしまい。この後、福音書の記者であるルカは、次の物語を語り始めます。

ルカの次の物語は「使徒言行録」という文書です。古い言い方では「使徒行伝」とも呼ばれているこの文書は、新約聖書では4つの福音書の後に収められていて、イエス様の弟子たちが何を伝えたのか、そのためにどこへ行って、どんなことをしたのかを語っています。ルカによる福音書と同じように、使徒言行録も第1章の最初、書き始めのところで、記者であるルカがテオフィロという人に宛てて挨拶をしています。このテオフィロという人物については、ローマの役人だったとか外国育ちのユダヤ人だとか、いろんな説があります。でも正確なところは、よくわかっていません。福音書の挨拶を見ると、どうやらテオフィロはイエス様がイスラエルで生きておられた時より少し後の世代の人で、誰かからイエス様のことを教えられたようです。

世界中に出て行ったイエス様の弟子たちが、いろんな人にイエス様の出来事を伝えて、それを聞いて信じた人がまた他の人に伝えて、という広がりの中にこのテオフィロという人は居たんでしょう。みなさんも経験があるかと思いますが、同じ出来事についての話でも、人から人に伝わっていく中で、細かい内容とか雰囲気は変わってしまうことが多いものです。ひどい時には、全然意味が違う話に変

わってしまうこともあります。人が変われば、受け取り方も感じ方も言葉遣いも変わりますから、何も変わらないままで伝えるのは、どうしたって難しい。そのことを、ルカも身に沁みて感じていたんじゃないかと思います。だから、ルカは福音書を書いた理由をテオフィロにこう説明しています。

「わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていただきたいのです。」(ルカ1:3-4)

弟子たちが世界中に出て行って伝えたイエスという人物は、いったいどういう存在なのか。イスラエルのナザレで生まれて、十字架刑で殺されて、復活して天に上げられたというそのユダヤ人男性が、人々の間で何を語って、何をしたのか。神様のひとり子であり、1人の人間でもあったイエス様を通して神様はどんなやり方で愛と救いをお示しになったのか。この福音書で伝えたかったそういうことの締めくくりとして、ルカは今日の場面を描いているんです。

<天に上げられながら>

イエス様は十字架で死なれて、三日目に復活して弟子たちの前に現れました。ビックリして怖がる弟子たちを安心させてから、イエス様

は改めて彼らにご自分のことと、これからのことをお教えになりました。メシア、神様が遣わされる救い主が苦しみを受けて死ぬことも、死から復活することも、モーセの律法と預言者の書と詩篇、つまり聖書全体が伝えていたことだ。この三日間であなたたちが見て聞いて体験した出来事は、まさに聖書が予告していた救いの出来事なんだ。あなたたちはこの救いの証人として、聖霊と一緒に送り出されていくんだよ。そう教えた後、イエス様は弟子たちをエルサレムからベタニアの辺りまで連れて行った、とルカはこの最後の場面を語り始めています。ここだけ読むと、イエス様は復活して弟子たちと会ってすぐに離れて行かれたみたいですが、次の使徒言行録でルカは、もうちょっと詳しくこの時のことを描いています。どうやらイエス様は復活されてから40日間、弟子たちと一緒におられたようです。慌ただしく「じゃあ、これで！」って離れて行ったのではなくて。一緒にいて少しずつ準備させて、それからイエス様は弟子たちにこの時を迎えさせたんです。

ベタニアはオリーブ山の辺りにあった村の名前で、エルサレムからは3km弱ぐらいの距離だったそうです。イエス様と弟子たちは、時々このベタニア村に滞在していました。そしてオリーブ山は、イエス様がよく祈りに行っておられた場所でもありました。正確にどことは伝えられていませんが、この時イエス様が弟子たちを連れて行ったのは、一緒に過ごした思い出

がたくさんあるところだったのかもしれませんが。そこへ弟子たちを連れて行くと、イエス様は手を上げて彼らを祝福なさいました。この祝福の仕方、なくはないけどちょっと珍しい感じがします。手を上げるという動作は、聖書ではどちらかというと祈りとか誓いの姿勢として、よく登場するものです。例えば旧約聖書の出エジプト記で、イスラエルの人たちが敵と戦った時に、モーセが手を上げて祈っている間はイスラエルが戦いに勝っていて、疲れて手が下がると負けそうになった、というエピソードが有名です。

詩篇にも「手を上げて神様に祈る」という言葉がたくさん出てきます。だから手を上げて祝福されたということは、ここでイエス様は神様に向かって「わたしの弟子たちを祝福してください！」と祈っておられるということでもあるのでしょう。手を上げて祝福を祈りながら、イエス様は弟子たちを離れて天に上げられました。祝福し終わってからではありません。祝福を祈り続けてながら、イエス様は神様のもとに移動させられた。そうルカは伝えています。イエス様から弟子たちへの祝福は終わらないままで、ルカはイエス様についての物語を締めくくっているんです。

<祝福は続く>

天に上げられたイエス様は、神様のそばで私たちの祝福を祈り続けてくださっている。神様と私たちの間を、イエス様が祝福の祈り

で今も繋げてくださっている。これが弟子たちの確信であり、福音書記者ルカの確信でもありました。だからイエス様を見送った弟子たちは、寂しがって不安になって泣くんじゃなくて、まずひれ伏してイエス様を礼拝しています。それから彼らは大喜びでエルサレムに帰って行って、いつも神殿の境内にいて神様をほめたたえていた、とルカはその後の弟子たちの様子を描いています。

イエス様は天に上げられてしまって、もう今までみたいに姿を見ることも声を聞くことも、一緒に食事をすることもできなくなりました。イエス様が約束してくださった聖霊も、この時の弟子たちにはまだ送られていません。それでも弟子たちは、神様を礼拝する場所に入り浸って、神様をほめたたえて幸せそうに喜んでいんです。姿は見えなくても、声は聞こえなくても、イエス様の祝福は今も続いている。今この時もイエス様が神様のそばで、私たちの祝福を祈ってくださる。その嬉しさと安心が、彼らの心を喜びでいっぱい満たしていたんだと思います。弟子たちの喜びは、イエス様の出来事と一緒に証言されて伝えられていきました。

イエス様が天に上げられた時にはまだ、弟子たちの中にはいなかった使徒パウロも、この祝福の喜びを伝えられて受け取った人たちの1人です。新約聖書のローマの信徒への手紙で、パウロはイエス様の祝福のことを証言しています。復活させられたイエス様が、神様の右

に座っていて、わたしたちのために執り成して
いてくださる。だから誰もわたしたちをイエス
様の愛から引き離せないんだ。そう言ってか
ら、パウロはローマの教会の人たちに自分の
確信をこんな言葉で伝えました。

「わたしは確信しています。死も、命も、天使
も、支配するものも、現在のものも、未来のも
のも、力あるものも、高い所にいるものも、低
い所にいるものも、他のどんな被造物も、わ
たしたちの主キリスト・イエスによって示され
た神の愛から、わたしたちを引き離すことは
できないのです。」(ローマ8:38-39)

イエス様が今この時も、神様のそばで私たち
の祝福を祈っていてくださる。だから死ぬこ
とも生きることも、天にいる御使いも地上の
支配者も、現在のものも未来のものも、どん
な力を持っているものも、地位も権力も、弱さ
も貧しさも。

神様以外の何ものも、イエス様によってあら
わされた神様の愛から私たちを引き離すこと
なんかできはしない。

そうパウロは宣言します。

イエス様の祝福は今も続いているんだ！と
いうあの弟子たちの大喜びを、パウロも喜び
ながら信仰の仲間たちに伝えているんです。

ルカがイエス様の出来事の締めくくりとして
テオフィロに、そして福音書を読む私たちみんなに
伝えているもの。イエス様の祝福の祈りは、

今も終わることなく続いています。

私たちが生きている世界も、私たち自身も
変わり続けていくものです。強くなったり弱く
なったり、成長したり衰えたり、良くも悪くも
変わり続ける中で、それでもイエス様の祝福は
変わらずに続いています。イエス様を救い主
だと信じて、ついて行くことを選び取った弟
子たち一人一人のために、いつだってイエス
様は祝福を祈り続けていてくださいます。

死ぬことも生きることも、私たちの強さも弱
さも、変わり続けるどんな状況も。神様以外の
何ものも、イエス様の祝福から私たちを引き
離したりはできないんです。だから嵐の日も
穏やかな日も、泣きたい時も喜びの時も、変
わらないで続くイエス様の祝福に信頼して、私
たちは進んでいきましょう。

今この時も、イエス様が私たち一人一人を
祝福していてくださる。この安らかな喜びを
受け取って、また伝えていくことができますよ
うに。

お祈りいたします。